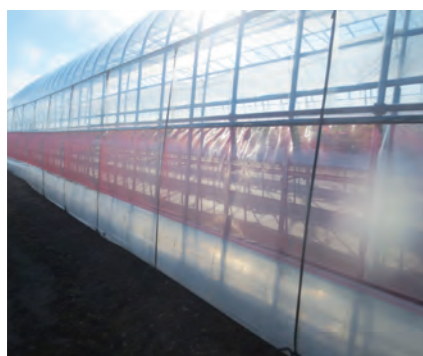


# サンサンネットeレッドの効果確認試験

JAきたそらち

原 敏夫



試験区



慣行区



ホリバー設置

## 試験目的

サンサンネットeレッドの効果確認試験

## 試験作物 及び品種

イチゴ

## 試験資材 及び数量(規格)

サンサンネットeレッド(0.8mm×90cm)

## 慣行資材

サンサンネット(1mm×90cm)

## 栽培方法

### 定植日

慣行区:4月1日  
試験区:4月1日

## 資材使用期間

5月27日~9月7日

## 試験区面積

315㎡

## 試験結果

- (1)作業性について(慣行品との比較)  
特に違いは無し。
- (2)作物の生育状況または、収穫への影響  
特に変化無し。
- (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について  
【優位点】: 害虫忌避効果  
【問題点】: 慣行品との差を感じられない
- (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について  
特に違いは無し。
- (5)保温効果について  
特に違いは無し。
- (6)雑草・病害虫の発生について  
色・目合いによる外部からの抑制効果はあると思う。

## モニター感想

慣行区1ミリ、試験区0.8ミリということで、同等規格の比較になっていないため、害虫抑制は色なのか、目合いなのかはわからないが、効果としてはよかったと思う。ただし期待していた程度までの効果が見られなかったため、今後も使用し効果を見ていきたいと思う。

## JA担当者の感想(資材推進課 田中 氏)

破れや劣化が生じにくい場所を使用するため、現場では長期間使用する方が多い。そのため、数年で色が抜けた後に、効果がどこまで持続できるかということも、今後見ていきたいと思う。商品としては、害虫抑制効果があり、価格差もあまりないことから、今後勧めていきたいと思う。

## 今後の使用について

継続して使用したい。

## 将来希望する資材について

スリップスを抑制できる商品が増えることを期待する。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 クリントート

4 機能性マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 省力化資材

8 その他

【参考資料】



H27年度試験結果

課題番号：  
課題：赤色防虫ネットによる夏秋どりいちごのアザミウマ防除効果確認  
担当機関：空知農業改良普及センター北空知支所  
担当者名：小林佐代  
協力分担：ホクレン岩見沢支所施設資材課、JAきたそらち青果部・資材部資材推進課  
(生産者モニター試験)

1 目的

北空知の夏秋どり作型では、生産者の半数がハダニ対策としてスパイカルを利用している。スパイカル放飼中の防除はスパイカルに影響の少ない薬剤を選択するが、それだけではアザミウマ類の加害を抑えきれないことが多い。そこでハウスサイド換気部に赤色防虫ネットを使用することにより、アザミウマ類の侵入を軽減できるか確認する。

2 方法

- (1)設置場所：深川市音江町稲田 原敏夫氏 高設夏秋いちごハウス
- (2)供試品種：すずあかね
- (3)供試資材：試験区 サンサンネットe-レッド(赤色目合0.8mm)  
慣行区 サンサンネット(白色目合1mm)

- (4)供試面積：試験区・慣行区とも100坪
- (5)耕種概要

定植日：4月1日(7.5cmポット苗定植)  
発砲スチロール製魚箱方式(1箱6株定植)  
いちご培土(農材工業)使用。  
e-レッド設置：5月27日



写真1 e-レッド(左)とライトネット(右)6/12

(6)ほ場図

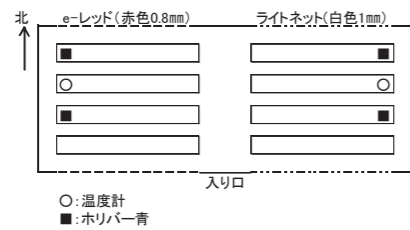


写真2 ホリパー設置  
6/12



写真3 温度計設置  
7/23

3. 結果

- (1)アザミウマ数調査(ホリパー青2枚設置。10日毎回収し捕獲数を調査)(図1・表1)  
6月上旬を除き試験区が慣行区を下回り、慣行比30~89%となった。
- (2)施設内温度調査(表2)  
7月23日14:00~31日10:50、8月10日14:00~20日16:50の2回、ベットの下に温度計を設置し10分毎に測定した。30℃以上となったデータ数は1回目で慣行比80%、2回目は慣行比100%となった。
- (3)防除履歴調査(表3)  
防除は試験区・慣行区とも同一散布となっている

4. 考察

- (1)アザミウマの侵入抑制効果  
本試験ではe-レッド(目合0.8mm)はライトネット(目合1.0mm)より施設内のアザミウマ数を抑制した。しかし期待したほどの差は出なかった。赤色ネットはミナミキイロアザミウマやネギアザミウマの侵入抑制効果はあるとされている。
- (2)ネット目合による施設内温度  
e-レッドは慣行より細かい0.8mm目合のため施設内温度の上昇が懸念されたが、測定結果は慣行より温度が低い~同等であり、問題なかった。
- (3)総合  
e-レッドの資材費は慣行のライトネットとほぼ同等であり、アザミウマ侵入抑制効果もライトネットよりは高いことから、導入を推進できる資材である。

5. 具体的なデータ

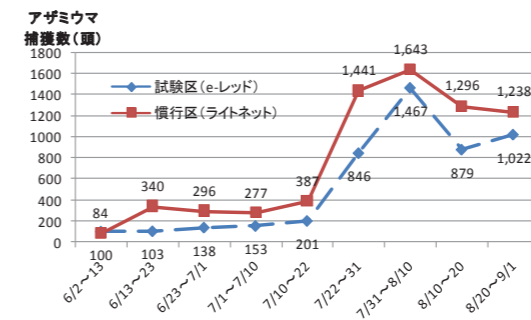


表1 アザミウマ捕獲数の試験区と慣行区の比較

月	6月	6/2~13	6/13~23	6/23~7/1
試験区/慣行区	119%	30%	47%	47%
月	7月	7/1~7/10	7/10~22	7/22~31
試験区/慣行区	55%	52%	59%	59%
月	8月	7/31~8/10	8/10~20	8/20~9/1
試験区/慣行区	89%	68%	83%	83%

図1 アザミウマ捕獲数(各区ホリパー青2枚)

表2 施設内温度調査(30℃以上データ数)

期間(データ数)	7/23~7/31(1,134)		8/10~8/20(1,458)	
30℃以上	データ数	全データ数に占める割合	データ数	全データ数に占める割合
試験区 e-レッド	195	17%	213	15%
慣行区 ライトネット	243	21%	212	15%
試験区/慣行区	80%		100%	

表3 防除履歴(試験区・慣行区とも同じ)

防除日	農薬名	倍率	防除日	農薬名	倍率
4月1日	アクタラ粒剤5	1g/株	7月20日	スピノエース顆粒水和剤	5000倍
5月20日	スパイカルプラス	100袋/10a	8月3日	ディアナSC	2500倍
6月20日	スピノエース顆粒水和剤	5000倍	9月7日	アーデント水和剤	1000倍
7月4日	ディアナSC	2500倍			